



—被災地で感じたこと—

<2011/5/28 開催「ほっと・ぼらんていあ」ゲスト・NPO 法人岩木山自然学校代表 高田敏幸さんのお話>



今回お話しを聞かせてくださった高田さん

「自然学校や山と共に暮らしてきた経験は、被災地支援活動に、必ず役立つに違いない」との思いからさっそく動き始めた。

釜石市大槌町近くの栗林地区(火事がすごかった所)に活動拠点を構え、児童館を借りて「ボランティア子どもセンター(子ども遊び隊)」としてスタートした。

大きな避難所では、子どもたちにもストレスがたまっている。私たちが昼間子どもを預かることで、避難所の大人たちもほっとできる時間が取れ、子どもたちも楽しく過ごせばストレス解消にもなると考えた。しかし子どもの相手ばかりでなく、支援物資の配給、フリーマーケットや青空喫茶店などの交流場づくり、重労働を伴った仕事もした。

一番困っていたのは、家が流されなかったために、避難所には入れず、食料はもらえず、買出しにもいけなかった人達だ。

避難所には支援物資がたくさん届くが、そんな人の所にはなかなか渡らないこともある。そういう人達に重点的に支援物資を届けた。民間だから出来たことだと思う。

300人の食事を5人で作った時もあり、大変だったが暖かい食事を提供できて喜んでもらえた。仮設住宅に入り始めた人もいるが、バラバラに入れられると地域のコミュニケーションが無くなってしまふ。特に男性は仕事が無くなるとだめになってしまうということがある。



ボランティアをしたいと思っている人はたくさんいると思う。

そう思ってもどこに行ったら良いのか分からない人は、我々のように地域をよく理解し、組織だって活動でき現地に根ざした人たちと一緒に行くのが良いと思う。

地元復興は経済の力が大きく、お金が回らないことには復興の力になっていかないものだ。現地の力の残っている農家の人に、ボランティアの人たちが泊めてもらい、朝夕食つき一泊いくらとお金を支払う。ボランティアとして仕事もするが、お金も落として行く仕組みでやっている。赤十字や公的義援金は届くのにかかると時間がかかる。NPO 団体に預けるといっても、効果的な義援金の使い方でもある。

またボランティアを支えるボランティアも必要だ。

泥上げや物資仕分けだけがボランティアではないと思う。今回のように広い範囲での災害には特に考えなければならないことだ。

休息はとても大事なことだ。ボランティアの健康問題もある。

いずれにしろボランティアの範囲で能力にあった支援をすることが大切だと思う。



★NPO 法人岩木山自然学校夏休み子ども体験参加者募集★

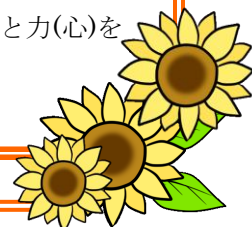
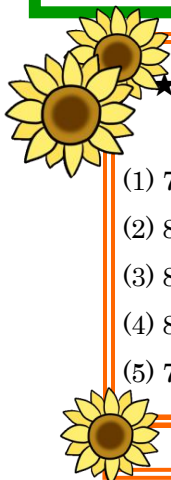
※被災地の子どもたちも参加します！

- (1) 7/29～31 2泊3日 白神山地十二湖体験キャンプ
- (2) 8/1～4 3泊4日 短期夏休み生活体験学校
- (3) 8/5～7 2泊3日 白神山地藤里駒ヶ岳体験キャンプ
- (4) 8/8～21 13泊14日 夏休み生活体験学校
- (5) 7/28～8/21 24泊25日 夏休み山村留学

ボランティア募集 元気な子ども達と一緒に！

野外活動等のお手伝いの出来る方、子ども達から元気ももらいたい方、あなたのあたたかい手と力(心)をお待ちしております。

申込先 NPO 法人 岩木山自然学校 電話 0172-83-2670



「こんなボランティアがあるよ」

僕の病室にピエロが来たよ！

～ホスピタルクラウンの活動について～

ホスピタル・クラウンとは、病気で苦しんでいる子どもたちのところにクラウン(道化師)が定期的に訪問して、あたたかい笑いを通して子どもたちの明るさと元気を引き出す活動のことで、クラウンは、赤い鼻のカラフルな衣装をつけた道化師ですが、日本ではピエロという名前で親しまれています。アメリカの医師の活動から始まったもので、名古屋を拠点にして、2003年からクラウン K さんが中心になってこの運動を広めています。

笑いは、大人にも、お年寄りにも必要なのですが、クラウンの人数が足りないのが、今のところ子どもたちだけに届けています。ホスピタル・クラウンは、時には子どもへのいたずら相手に、時には相談相手に、またただベッドに寄り添うだけのこともあると言います。

現在までは愛知県を中心に活動してきましたが、今回の震災に道化師さんたちも立ち上がり、宮城県の避難所に笑いを届けたそうです。入院している子どもたちにも、辛い日々を送っている人たちにも、元気と明るさの出る“笑い”は必要だと思います。



豆知識 ～LED電球について～

最近話題のLED電球、省エネ用の照明光源として2009年秋頃から一般電球タイプが発売されています。何といっても従来の白熱電球より消費電力が88%もお得で、かつ長寿命(約20年もつ)なのが特徴です。書籍や衣類の色あせを防いだり、虫が集まりにくいなどの利点もあります。少々お高いのですが、長い目で見ればとても経済的で便利。もし今お使いの電球が切れたら、可能なところから取り替えてみませんか？



＜製作＞市民ボランティアスタッフ

＜製作協力＞弘前市ボランティア支援センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター2階
月～土曜 9時～17時

TEL: 38-5595 FAX: 36-1822

HP: <http://www.hi-it/~vsc>

情報紙についての意見・感想をお待ちしております。

“ほっとぼらんていあ”7月2日(土)実施

「傾聴というボランティア」

チャイルドライン あおもり

子どもの心が道に迷ったとき、話を聞いてあげる大人が必要です。18歳までの子どもの電話を受ける活動している、伊丹秀子さんにお話をさせていただきました。

「楽しいこと、悲しいこと、悔しいことなど、心の中を聞いてほしい子どもに、寄りそいたいという思いで始めた。この活動は次の4つのことを守っている。

「ヒミツは守るよ。」

「どんなこともいっしょに考えるよ。」

「名前は言わなくていいよ。」

「切りたい時に切っていいよ。」

始めてからまだ4年と日が浅く、電話を受けるボランティアも足りない状態だけれど、“それは間違っているよ”とか“こんな風にやれば？”とか、大人の考えを押し付けるのではなく、子ども自身、私は私でいいんだと気づき、前に歩き出して行ってほしいという思いで話を聞いている」

チャイルドライン

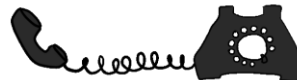
電話 0120-99-7777(電話代はかかりません)

毎週月～土 午後4時～午後9時

10月と11月に受け手養成講座を開く予定ですので、詳しいことはチャイルドラインあおもり・弘前ライン室へお問い合わせ下さい。

電話/FAX: 0172-52-4661

事務局携帯: 090-3129-4581



・次回の「ほっとぼらんていあ」は・・・

9月24日(土) 13:30～15:30

・「リンパマッサージ」の効果や効能のお話、ボランティア活動の報告

・マッサージ体験

※詳細は広報、チラシなどをご覧ください。

編集後記 新スタッフ紹介

今年度からボランティア担当になりました職員の阿保です。31号からふくろう通心作成に関わっています。まだ関わり始めて数ヶ月ですが、たくさんのボランティア団体や活動を知り、そのぶん、たくさんの驚きがあります。皆さんが読んで楽しく、ためになる情報紙が作れるようにできれば、と思います。